

第15回特別展

2000・7・18(火)▶9・24(日)

トーテムポール

と

サケの人びと

北西海岸インディアンの森と海の世界

PEOPLES OF TOTEM POLES AND SALMONS

休館日 月曜日

開館時間 9:30~16:30

特別展 一般 300円(240円)

観覧料 高校生・大学生 100円(80円)

小学生・中学生 50円(30円)

()内は10名以上の団体料金

協力 国立民族学博物館、北海道開拓記念館、
菅野茂・二風谷アイヌ資料館、岡田淳子氏
網走市、大滝村、株式会社総北海

講演会 トーテムポールとサケの人びと

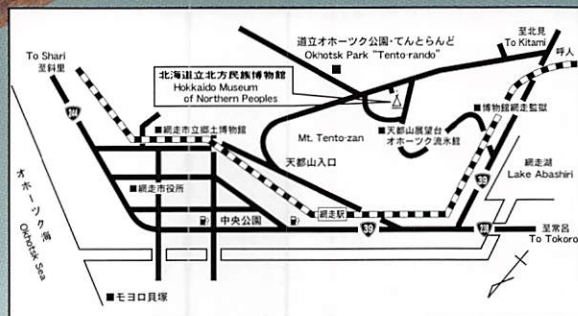
日時 7月29日(土) 13:00~16:30

会場 当館講堂

講師 岡田淳子氏(北海道東海大学)

ダン グッドマン氏(財団法人日本鯨類研究所)

岩崎まさみ氏(北海学園大学)



〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1

(天都山・道立オホーツク公園内)

TEL 0152-45-3888/FAX 0152-45-3889



北海道立北方民族博物館

Hokkaido Museum of Northern Peoples

※写真 左:カーヌ/ヌートカ(北海道立北方民族博物館蔵) 右:トーテムポール模型/北西海岸インディアン(国立民族学博物館蔵)



仮面／クワキウトル（国立民族学博物館蔵）

トーテムポールとサケの人びと —北西海岸インディアンの森と海の世界— Peoples of Totem Poles and Salmons

北アメリカ・北西海岸—アラスカ州南部からカナダ西部、アメリカ・ワシントン州にかけての沿岸部—は、深い入江とたくさんの島々が複雑な海岸線を形作っています。高緯度の割に暖かく、降水量が多いこの地域には、巨大なシーダー（ヒノキ科）やスプルース（マツ科）といった針葉樹の深い森林が発達しています。また、海ではニシンやタラ、オヒョウ、5種のサケが獲れるなど、水産資源に恵まれた地域でもあります。北西海岸インディアンと総称される人びとは、この地の豊かな自然環境を背景に独自の文化を育んできました。

北西海岸インディアンの伝統文化の特徴として、樹木、特にシーダー類が広く使用されていたことが挙げられます。木の伐採や木材加工の技術に優れ、家やカヌー、調理具、食器など、生活に必要なものの多くが木で製作されました。また、シーダーの内皮やスプルースの根を細かく裂いて編み上げ、敷物や籠、帽子、衣服までが木で作られました。



帽子／ヌートカ（北海道立北方民族博物館蔵）

北西海岸インディアンは、食物の大部分を海や川の資源に依存していました。アザラシ類やイルカ類など小型の海獣を対象とした狩猟は広くおこなわれ、一部地域では捕鯨もみられました。オヒョウやタラなどの大型の魚は、木製のU字型やV字型の釣針で釣りあげられ、ニシンやユウラコン（キュウリウオ科）、サケ類は、網や罾、籠などで捕獲されました。特に季節的に大量に回帰するサケ類は重要で、神話では「サケは、海の中では人間の姿をしたくサケの人びと」であり、時期が来ると魚の姿になって川を遡るとされてきました。

こうした豊富な食物資源に支えられ、北西海岸インディアンには貴族、平民、奴隷といった社会階層がみられました。冬には蓄えられた富を分配する祭宴が催され、仮面や衣装で精霊に扮した人びとによって踊りや演劇が上演されました。

北西海岸インディアンは、精緻な彫刻や独特のデザインでも知られています。なかでもトーテムポールと呼ばれる柱は、その大きさと表面に施された特異な彫刻で広く人びとの目を引きつけてきました。彫刻は、集団の由来を示す神話などを表現したもので、刻まれた動物や人物のあるものは個人や集団の紋章としての役割を果たしていました。トーテムポールに代表される独特の彫刻やデザインは現代の工芸品・美術品にも受け継がれ、今日も新たな作品が生み出されています。

期間中の催し

講座 北西海岸インディアンの歴史と文化

日時 7/20(木・祝) 13:30~15:00

講師 中田 篤(当館学芸員)

講習会 北西海岸インディアンの
ミニチュア・ボタンローブづくり

日時 8/12(土) 14:00~16:00

講師 笹倉いる美(当館学芸員)

*参加はすべて無料です。事前にお電話でお申し込みください。